

**事例5** 多様な価値を認め、尊重し、自分なりの価値判断を試みることをねらった事例

- 学年 第3学年
- 主な領域 鑑賞の活動
- 事例のポイント
  - ①作品に対する知識・理解を前提とするのではなく、よさや美しさなど気付いたことや感じたことから作品のもつ魅力に迫る。
  - ②グループ活動での話し合いから出てきた「作品に対する印象や思い」を文章にしたり、発表したりすることで「学び合い活動」の充実を図る。
  - ③ICT端末を用いて絵画の細部まで鑑賞し、生徒が主体的に鑑賞できるようにする。

1 題材名 「直感と知識 ～時代で変わるもの、変わらないもの～」  
 【第3学年】B鑑賞(1)ア(7)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 鑑賞の活動

2 題材について

(1) 生徒の実態 (略)

(2) 本題材を指導するに当たって (略)

3 目標及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イはア\_\_\_\_\_、イ\_\_\_\_\_で示す。)

(1) 題材の目標

- ・形や色彩、材料、光などが感情にもたらす効果、描かれたものやその表現方法を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 (知識及び技能)
- ・西洋美術のもつよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、作者の表現の創造的な工夫を考え、鑑賞の学習活動に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> 形や色彩、材料、光などが感情にもたらす効果、 <u>描かれたものやその表現方法を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</u>	<b>鑑</b> <u>西洋美術のもつよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</u>	<b>態鑑</b> <u>主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、作者の表現の創造的な工夫を考え、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</u>

※それぞれの評価規準は「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。(下線部は変更箇所)

4 指導と評価の計画 (全2時間扱い)

○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価

時間	学習のねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等			備考
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		<b>知</b>	<b>鑑</b>	<b>態</b>	
既習事項	・ルネサンスの表現では人間の魅力を表現するためにどんな効果を生み出しているかを考える。			○	「主体的に学習に取り組む態度」は、ルネサンスの表現はどのようなものかを考えているかという視点で指導に生かす。

1	・西洋美術の造形的な視点に着目し、よさや美しさを感じとる。	◎ 観察 対話 記述			「知識・技能」は、造形的な視点をもつことができているかという視点で評価する。
2	・作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。	○ 観察 対話 記述	◎ 観察 対話 記述	◎ 観察 対話 記述	「思考・判断・表現」は、自分の考えをもつことができているかという視点で評価する。
事後指導	・これまでの授業を踏まえ、地域の美術館や博物館と連携を図り、施設や文化財などを活用し積極的に学ぶ。			○	「主体的に取り組む態度」は、美術館や博物館に興味・関心をもつことができているかという視点で指導に生かす。

評価について：授業中に鑑賞の指導をしながら全ての生徒を評価することは難しい。授業中は「おおむね満足できる」状況（B）に達しない生徒に対して、個々の生徒や学級全体に助言することに重点を置く。また生徒の発言内容に「十分満足できる」状況（A）に該当するものがある場合には、その評価を記録しておく。授業終了後に授業内容での暫定的評価やワークシートの記述などをもとに評価を行うことが基本となる。

### 5 本時の学習（本時 2 / 2時）

- (1) 目標 ・西洋美術のもつよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- (2) 準備
  - 教師：プロジェクター、PC、ワークシート
  - 生徒：ICT端末
- (3) 展開

過程時間	学習活動 予想される生徒の 具体的な姿（「」）	指導の工夫 （〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ_____）	評価と手立て 【観点】：評価規準（評価方法） ◎：十分満足できる状況 ◆：B評価に達しない生徒への手立て
導入 5分	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">提案 鑑賞の楽しさを味わうには・・・。</p> <p>1 本時のねらい、作品鑑賞の方法と手順を知り、本時の活動内容の「見通し」をもつ。 「1時間で2枚しか見ないの？そんなに時間は必要ないんじゃないの。」 「自分で拡大できるなんて面白い。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>事例のポイント①</b> 作品①は絵の見方を学ぶため、ワークシートへ記述させることよりも生徒との会話を中心に授業を進めるが、見方の練習とはあえて伝えない。</p> </div>	<p>○「観る→考える→話す→聴く」のサイクルで絵を鑑賞することを伝え、本時の見通しをもたせる。</p> <p>○鑑賞する絵画の画像は拡大ができ、細部まで観察できることを伝える。</p> <p>○2枚の作品を鑑賞するが、2枚目を中心に鑑賞することを伝える。</p>	<p>【知】形や色彩、材料、光などが感情にもたらす効果、描かれたものやその表現方法を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 (観察・対話)</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【指導に生かす評価】 作品に興味・関心をもって観察している様子や、何が描かれているか話し合う様子を見取り、指導に生かす。</p> </div>

<p>展開① 10分</p>	<p>2 ICT端末を使い作品①に何が描かれているか調べる。 「豪華な服装をしている。」 「鮮やかな色の服を着ているな。」 「ギターがある。」</p> <div data-bbox="220 459 590 689" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>事例のポイント②</b> 鑑賞することの楽しみを感じさせるため、生徒の発言に焦点をあてて作品の見方を深める。</p> </div> <p>3 細部を観察し、発見できたことを共有する。 「ギターの弦が切れているな、なんでだろう。」 「地球儀も軸受けがない。」</p> <p>4 描かれた物の意味を考え作品の見方を深める。</p>	<p>○ここでは作品を短時間で鑑賞する。</p> <div data-bbox="625 228 1034 414" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>事例のポイント③</b> 作品を観察する時間をとることで、何が描かれているかを見取らせる。</p> </div> <p>○造形的な視点をもたせるため、色彩や光などの要素に着目させる。</p> <div data-bbox="625 577 1024 705" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>編 P100 指導計画の作成の留意事項(6)</p> </div> <p>○「描かれた物」を対話で取り上げ、発見したことをクラスで共有する。</p> <p>○作品の時代背景を伝え、描かれた物には全て意味や意図があることを押さえる。</p>	 <p style="text-align: center;">作品①</p> <p><b>【態鑑】</b>主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、作者の表現の創造的な工夫を考え、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 (観察・対話・記述)</p> <p>◎作者の表現意図を理解し、様々な解釈があることを認め、作品鑑賞を楽しむことができる。</p> <p>◆解釈は自由であることを伝え、自分なりの判断をし、作品鑑賞が楽しめるように助言する。</p>
<p>展開② 25分</p>	<p>5 ICT端末を使い作品②にどのようなものが描かれているかグループで調べ、友人と協力することで新たな視点を見つける。 「豪華な服装だ。」 「鏡がある。映ったものが細かく描かれている。」</p> <p>6 ICT端末を使い、作品②に描かれている人物について班で考える。 「怖い顔しているな。」 「手をとりあっているな。」</p> <p>7 これまでの発見から作品②は何の絵なのかを考える。 「結婚の絵かな。」</p>	<p>○作品①の鑑賞を生かして、自分たちで発見させたい。発見したことはクラスで共有する。</p> <p>○どこからそう思うのか、感じたことやイメージから根拠をもとに自分なりの考えをもたせる。</p> <p>○描かれた人物のしぐさや様子などに着目させる。</p> <p>○どこからそう思うのか、感じたことやイメージから根拠をもとに自分なりの考えをもたせる。</p> <p>○描かれた物や人物の様子から、この絵はどのような場面を表現しているのかを考えるようにする。</p>	 <p style="text-align: center;">作品②</p> <p><b>【鑑】</b>西洋美術の持つよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 (観察・対話・記述)</p>

	<p>8 自分の考えを班で共有し、様々な班員の考えを知った上で自分の考えを整理する。</p> <p>編 P100 指導計画の作成の留意事項(2)</p>	<p>○正解がないことを伝え、個人の考えを尊重するようにする。多様な意見がでるように「～かもしれない」という言い方で受け入れていくようにする。</p>	<p>◎多様な価値を認め、尊重し、自分なりの価値判断を試みている。</p> <p>◆友人のどのような視点がよいと感じたのか、自分はどこからそう感じたのかなど、一緒に考え助言する。</p>
整理 10 分	<p>9 自分の考えを発表し、クラスで共有する。</p> <p>10 多様な考え方や解釈があり、それが鑑賞の楽しさ、魅力であることを確認する。</p>	<p>○受容的な雰囲気をつくり、自分の感じたことや考えたことを発言できるようにする。</p> <p>○作品を鑑賞する際の見方が深まったこと、その力を活用することができたことを褒める。大切なのは自分たちで考え、様々な発見ができたことだと伝える。</p>	

【知】=「知識・技能」の知識に関する評価規準、【技】=「知識・技能」の技能に関する評価規準、【発】=「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、【鑑】=「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、【態表】=表現における「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準、【態鑑】=鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を表す。  
 ※【記録に残す評価】は□、【指導に生かす評価】は○で示している。

## 6 補足

- (1) 在籍生徒数 40 名
- (2) 板書計画

<p>鑑賞 鑑賞の楽しさを味わうには・・・ 見通し 観る→考える→話す→聴く ・何が描かれているか</p> <p>振り返り 多様な価値を認め、自分なりの解釈をする。</p>	<p>作品 1 作品 2 プロジェクター投影 (原寸大)</p>
--	--

備考：作品①では「作品の見方」のポイントを知り、作品②でその力を活用したい。そのため、作品①の鑑賞には時間をかけず、作品②についてじっくりと考える時間を設けたい。教師が知識を教えると生徒は自ら考えることをやめてしまうので、教師は作品の知識や情報に関して最低限の事しか与えない。重要なのは生徒が自ら発見し、根拠を基に考え、自分の答えを出すことである。

画像：作品①「大使たち」 ハンス・ホルバイン  
 作品②「アルノルフィーニ夫妻像」 ヤン・ファン・エイク